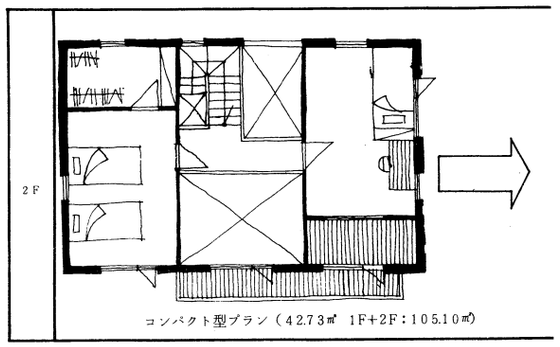
ポイント6 100年使うことを考えて間取を考える

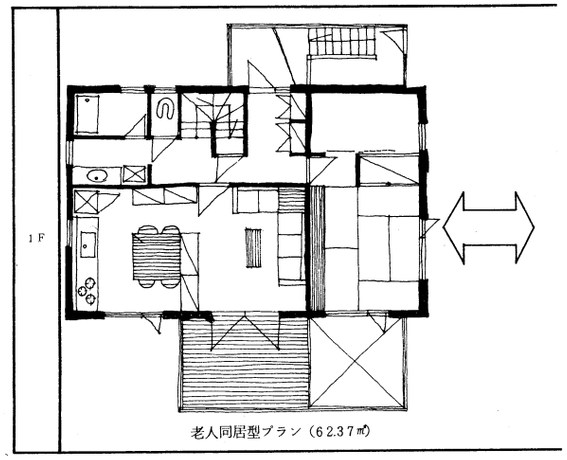
住宅は十分な耐久性をもつべきものです。戦後の経済成長を経験する中で，劣悪な住宅とスクラップ＆ビルドをくり返して，ようやく将来的な耐用性のある住宅を建設できる状況が生まれてきました。木造住宅といえども５０年，いや１００年の耐久性を目指すならば，住宅の設計も違った観点から考え直さなければなりません。老人同居，三世帯住宅等と話題を呼んでいますが，そのような実例は，これまで述べてきたような寒地住宅としてのポイントを押えたものになっているでしょうか。どうもあまりそうではないような気がします。半地下室や吹板，小屋裏等を十分に活用した，可変性の高い適応性の広い住宅の原型を探す必要があるようです。

図は，伊達市の須藤建設という会社が，ＲＣ外断熱のローコストなシステム住宅を作りたいという相談を受けて，できあがった一つの例です。3.5間×5.5間の総2階というコンパクトな原型の中で，吹抜，地下室，サンルーム，風除室，更には小屋裏3階までは世帯の変化に対応して，増改築可能な計画です。

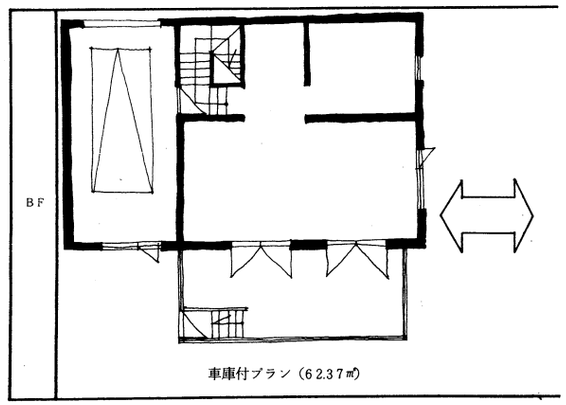
この計画は，木造でも大部分が可能となります。広い敷地を要する計画や狭い敷地にびっしりと建てなくとも，これだけの構成が可能となるわけです。



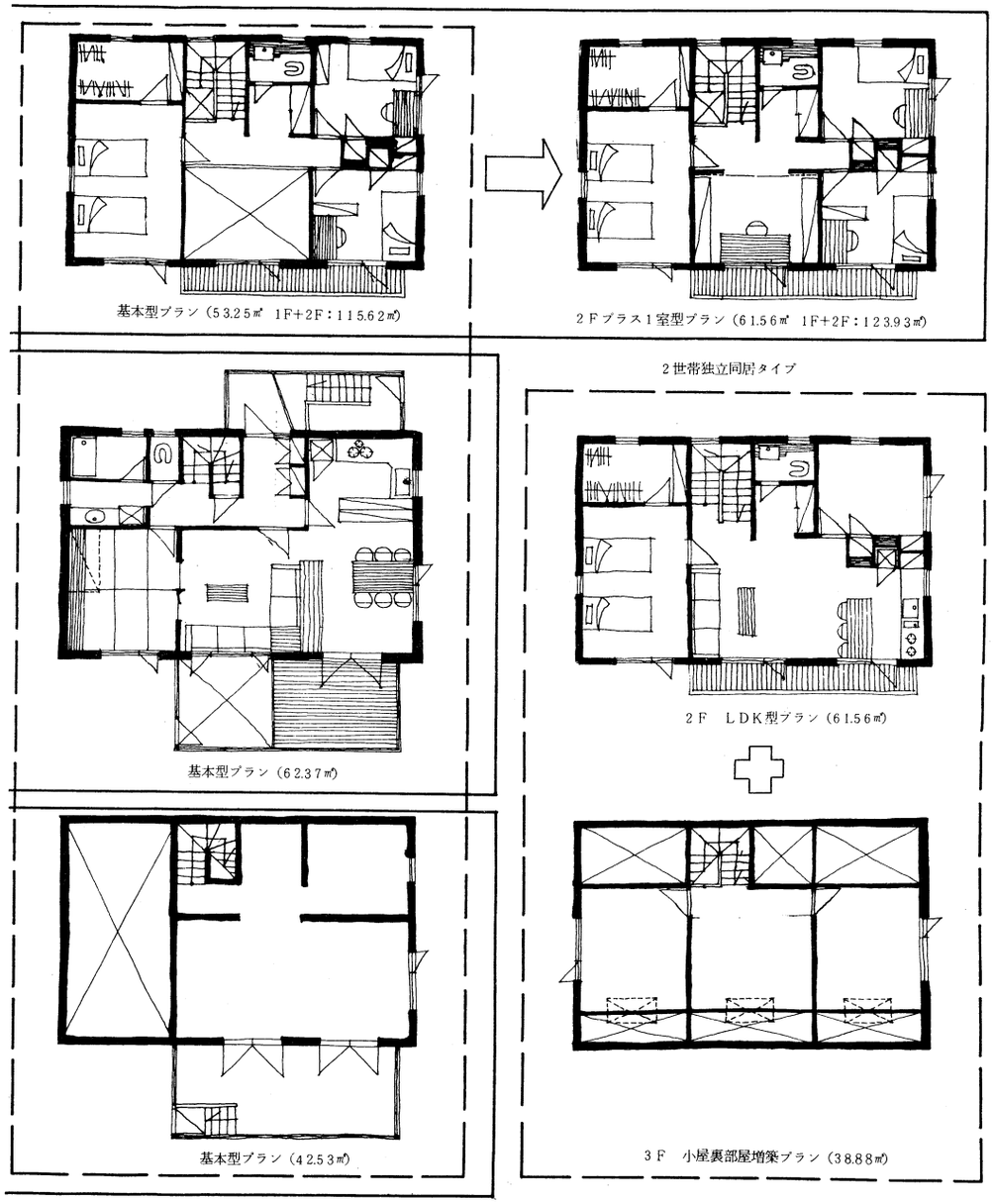
コンパクト型プラン（42.73㎡ 1F+2F：105.10㎡）



老人同居型プラン（62.37㎡）



車庫付プラン（62.37㎡）


基本型プラン（53.25㎡ 1F+2F：115.62㎡）

2Fプラス1室型プラン（61.56㎡ 1F+2F：123.93㎡）

基本型プラン（62.37㎡）

2世帯独立同居タイプ

2F　LDK型プラン（61.56㎡）

基本型プラン（42.53㎡）

3F　小屋裏部屋増築プラン（38.88㎡）